

町政を問う！



議員 平野和生

次期町長選挙への意向

問 椎木町長は、平成20年10月の町長選挙に「合併して良かったと実感できる町づくり」を目指し、見事に初当選され、財政健全化や賑わいの創出に大きな成果をあげられた。

しかしながら昨年度より大島・久賀地区の公共下水道工事や、今年から始まる浮島への海底送水事業がある。

また、いつ起こるかかわからない南海トラフにおける東南海・南海地震に備えての災害対策。現在の高齢化社会においての高齢者福祉対策等まだまだ課題は山積している。

昨年12月に策定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

に掲げる4つの政策の基本目標を実現していくためにも是非とも椎木町長の続投を望むものである。

この重要な時期に椎木町長の優れた行政手腕に期待し出馬のご意思についてお尋ねする。

答 私は平成20年10月、初当選させていただき、平成24年10月には「観光交流人口100万人構想」をステップアップした「交流から定住へ」をキャチフレーズに定住対策を一番に掲げ再選させていただいた。

この間、町議会の皆様をはじめ多くの町民の皆様からのご指



出馬表明する椎木町長

導とご協力をいただきながら職員とともに町の将来像である「元気にここに安心の島」を目指し、取り組んで参った。

顧みますと、町長としての一番の取り組みでありましたが、合併直後のあの厳しい財政状況を経験している私としては、各政策のベースになる財政の健全化が第一であった。

住民福祉の充実を図りながら行財政改革を進め、財政の健全化に努めて参った。

お蔭様で合併時より単年度で人件費が8億円の減少、公債費は11億円の減少、262億円あった町債残高を86億円削減することができた。財政調整基金につきまして51億円まで造成し、漸く中期的な財政運営への道筋はつけられたものと感じている。

これもひとえに、議会並びに町民の皆様のご協力のお蔭でありまして改めて感謝申し上げます。

このように、財政的には成果の出ている反

面、人口減少問題は合併時より更に大きな課題となっている。

観光交流人口100万人構想の中で新たに観光の柱として瀬戸内のハワイを発信、体験型修学旅行の誘致などを通じて、昨年の観光交流人口98万人となり、100万人が現実の数字になりつつある。

今後は、アワサンゴなどの貴重な海域でのエコツアーや小型クルーザーによるクルージング。バイクや自転車ツアーの掘り起しなどを進め交流人口100万人を達成したいと思う。

また、町内での働く場の確保と交流人口をいかに定住へ繋げるかが一番の課題である。

これからは、更に大胆に行財政改革を推進し、充実した子育て支援による定住策。実効性のある防災対策、更なる健康寿命の延伸などの重点課題に全力を尽くしていくことが、今の私に課せられた天命であるとの考えに至り、次期町政運営の重責を担わせていただくべく、10月の町長選挙に臨みたいと決意を新たにしているところである。